

# 教務だより

2018年9月号  
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

## 真夏のミラクル

茗溪塾塾長 宇野 雅春

到着した志賀高原は、それまでの「これまで経験したことのない暑さ」と形容される真夏日とは全く違っていました。涼しい！と思う間もなく「寒い！」という言葉がぴったりの状態に、風邪をひくであろう参加の生徒たちの多くを想像して身が引き締まる思いがしました。

この寒さは、合宿中を通して続き、昼8℃、朝4℃とか言っているうちに、朝方には車のガラス面が凍るという事まであり、長袖長ズボンを奨励して良かったと思ったのですが、生徒アンケートの中には、この寒さについてもっとキチンとした説明があるべきだという意見もありました。私の場合は初回から毎回参加していることもあり、かつて一度だけ同じような寒さに遭遇したことがあったのですが、若い先生たちは多分経験がなかったかもしれません。私の方は、自分の寒さに震えた経験を「気がついたら別の人の長袖を着ていて、自分のが模様は同じなのに実は半そでだったことに最後まで気がつかなかった…」みたいな話を生徒にはしたのですが、猛暑の中にいる子供たちは「嘘だー！」というノリであまり本気にはしなかったようです。でもさすがに小中学生は親がかりなので、ほぼ全員長袖、長ズボンを持ってきていて事なきを得ました。高校生の一部は菓もあまり読んでいないようで、寒い思いをした生徒もいたようです。

寒いのに天気は素晴らしく、山を活用した行事は日本アルプスまでくっきりと見えての最高の大景観。多分一生ものの景色を堪能できたと思います。夜の天体観測も、接近している火星、おまけに木星、土星までが鮮やかに見えました。

例年合宿中は病院と宿舎を往復するのに忙しいはずなのに、なぜか今年は最終日まで一人も病人がいなかったというミラクル。昨年より参加がかなり多かったにも関わらず…です。

そして帰ってきて、一夜明けて初めて気がついた「金足農業と大阪桐蔭」の甲子園での決勝戦…。合宿というのはスタートした瞬間からすべての時間を奪われるものなので、テレビに触れることも、新聞を読むこともなく時間が流れ、完全に外界から切り離されてしまいます。この甲子園の決勝戦、地方の県立高校が甲子園で決勝まで勝ち進んだという驚きもさることながら、日本全国がこのミラクルに沸いているその最中、そのこととは全く無縁に集中していた自分達に実はびっくりしてしまいました。そのくらい生徒にもスタッフにも全く余裕のない行事であることを改めて痛感した次第です。

このところ、スポーツの世界では、ミラクルが続いています。ミラクルを作るものはいろんな工夫や試みはあるものの、結局は「地道な努力」なのだと思います。すべてを忘れて打ち込む！この集中力とその一つをやり遂げるだけのためにひたすら努力を重ねること。

無我夢中の合宿ももしかしたら新しい「ミラクル」を作るかもしれない…。厳しさもあるけれど、仕事を越えての感動があるのも事実です。今年の夏の一番は、初めて試みた合宿でのキャンプファイヤー…燃え盛る炎の中で小中学生を中心に沸き上がった「栄光への架け橋」の大合唱…空に光る星とともに胸に刻まれることになりました。